

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	(株)クロスサービス	事業所名	ほのかのぬくもり
所在地	(〒790-0095) 愛媛県松山市朝生田町七丁目13-28		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ ご利用者、一人ひとりの今の状況に合わせた支援ができるようにしている。
- ・ 相談窓口として機能できるように、病状や身体状況にかかわらずまずは相談にのっている。
- ・ ぬくもりという名前にあるように、職員だけではなくご本人・ご家族相互で関係が深まりホッとできるような雰囲気づくりを心掛けている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 <u>2021</u> 年 <u>2</u> 月 <u>25</u> 日	従業者等自己評価 実施人数	(<u>7</u>) 人	※管理者を含む
----------------	---	------------------	----------------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 <u>2020</u> 年 10 月 27 日 (会議開催) 4 月、6 月、8 月、12 月 (中止) 書面 西暦 <u>2021</u> 年 2 月 26 日 (中止) 書面	出席人数 (合計)	(<u>11</u>) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (<u>5</u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (<u>1</u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (<u>1</u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (<u>2</u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 (<u> </u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族 (<u> </u> 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (<u> </u> 人) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (<u>2</u> 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	災害避難訓練に参加できなかった職員も含め企画を立て、職員間でシミュレーションを行う。	今まで参加できなかった夜勤者2名、火災避難訓練で消防通報、初期消火、避難の方法を学ぶことができた。	ワンパターンで終わらず新型コロナ期での避難先での工夫や水害時の避難方法など様々なパターンを想定して取り組んでいく。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	定期的を担当者会議を開き、連泊が続いているご利用者についてはサービス内容の提案や施設とは違うので短時間でも自宅に帰られるようご家族を交えて取り組む。	毎月のモニタリングにより家族、本人の意見を聞いて提案し、帰宅支援につなげることが出来た。また、福祉用具業者も含め担当者会議を定期的に行い利用者の体に合った車椅子を提供することができた。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	今後も他の法人の運営推進会議に参加し連携を図る。ご家族にも参加していただけるよう取り組む。	新型コロナ感染拡大防止の影響があり、他の法人の運営推進会議に参加できなかった。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	地域包括ケアシステムについて新人職員に対して勉強会を開く。 継続して地域行事に参加し、また自事業所で定期的で開催している「何でも相談室&もったいない市」の内容を深める。	新人採用時のオリエンテーションにおいて地域包括ケアシステムの説明を行うようにした。 新型コロナの影響で中止している。ご近所の方から再開したら知らせてほしいとのご意見があった。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	介護職、看護師がサービス・ケアの質の向上とスキルアップを図る目的で勉強会や研修などに取り組んでいく。	コロナ禍で外部研修が中止になることも多かった。アンガーマネジメントやオンラインでのリスクマネジメントなど研修に参加した。	認知症、身体拘束・虐待、感染症の研修は必須で、それ以外でも専門的な研修やケアの質の向上を図る研修・勉強会に今後も取り組んでいく。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	ワンパターンで終わらず新型コロナ期での避難先での工夫や水害時の避難方法など様々なパターンを想定して取り組んでいく。	災害避難訓練を様々なパターンを想定して取り組んでいく。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者に合ったサービスを提供することができた。 利用者、家族への説明などにタブレットの利用で分かりやすく補足しては。	スマートホンの利用や、前もって準備が出来るパンフレットやチラシ等で利用者、家族に補足説明ができるように工夫してみる。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	今後は連携して参加につなげていけるよう工夫して取り組んでみる。	他の法人との連携をとり、運営推進会議に参加し、同じ看多機での課題や対策など情報交換し、利用者のためのサポートに必要なサービスの提供ができる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	楽しみにされている地域の方もいらっしゃるので、新型コロナが終息したら、秋にでも大きなイベントを一つ考え取り組んではどうか。	「何でも相談室&もったいない市」の内容を深める。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	認知症、身体拘束・虐待、感染症の研修は必須で、以外それでも専門的な研修やケアの質の向上を図る研修・勉強会に今後も取り組んでいく。	認知症、身体拘束・虐待、感染症の研修は必須で、それ以外でも専門的な研修やケアの質の向上を図る研修・勉強会に今後も取り組んでいく。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよ そで きてい る	あまり で きてい ない	全く で きてい ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 全ての職員が目標達成評価表を作成し、目標達成に向け取り組んでおり、進捗状況を毎月評価している。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 4月に年間の研修計画を作成し、実施できるようにしている。新型コロナの影響で研修場所は換気など予防対策を講じている。社内、社外ともに研修に参加している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 月1回のミーティングで介護職・看護職・介護支援専門員の間で、個別ケースについて話し合う機会を設けている。また、毎日の朝の					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
		申し送りの後、ご利用者の気になることなど話し合う場を設けている。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている			○		要望・実行がなぜ難しいのか再度運営推進会議にはかり、何が問題なのか問題提起を図るべきです。積極性に欠ける。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 新型コロナウイルス感染拡大防止により会議を中止し書面開催にしたが、意見をいただいて反映するまでに時間がかかってしまった。町内の公園花壇の草引きや花植えは継続して行っている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 職員の希望休は必ず休みにし、できるだけ有給を使用するようにしている。極力時間外労働にならないようシフト作成している。定期的に職員との面談を入れているが、それ以外にも必要時には面談をし、精神的な負担の軽減にも努めている。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている		○				✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者 等および職員の安全確保の ため、事業所においてその 具体的な対策が講じられて いる			○		① 携帯電話を手を持ちたり 反射板を身につけて移動 するなど簡単なことから 考えてもいいかと思いま す。 ② 今後の為に具体的に対策 がとられているか明記し、 今後の対策について職員 会議において議題にすべ きです。	✓ 「各種の事故に対する予防・対 策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、 例えば「医療・ケア事故の予防・ 対策」、「交通安全」、「夜間訪問時 の防犯対策」、「個人情報保護」な どが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		<p>① 災害といっても火災・水害・地震など様々なパターンを想定して具体的に対策をご検討下さい。</p> <p>② 防災士として他の施設と比べるとその取り組みは大変高く評価できる。しかし、昨年7月の松山市の水害マップによって朝生田町の防災について取り組みが大きく見直し変更を余儀なくされている。これについては町内と市との間で現在協議されている。またコロナにより災害避難について取り組みが大きく変わった。絶えずそれらに対する対応も考えなくてはならない。ワンパターンな取り組みでなくそれらの対応に前向きに取り組むように。</p>	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
II サービス提供等の評価							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	[具体的な状況・取組内容] 利用者、家族の考えを含めた計画を作成している。					でなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	に把握し、計画への適宜反映が行われている	状況変化により訪問看護を入れたり、状態安定になれば訪問介護に切り替えたりと適宜反映している。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かし		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ながら、柔軟な役割分担が行われている	[具体的な状況・取組内容] 介護面に関しては役割分担なく看護師も一緒にケアしており、業務の状況に応じた柔軟な対応をしている。					度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく		○			書面説明だけでなくタブレット利用による補足説明す	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	説明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 契約時にも説明し介護支援専門員の訪問によるモニタリングでもサービスの確認をして理解を得ている。				るとか検討されてはどうか。	
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 在宅での療養生活の継続に向けて留意する点等についてご家族にも説明し理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ご家族が習得できるまで、来所時や自宅訪問時に一緒に行い、確認している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 重度化した場合、ご本人、ご家族と相談し泊まりや訪問看護のサービス提供に反映している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 担当者会議を開き 今後のご本人・ご家族の意向を確認しながら検討内容を共有している。</p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<p>[具体的な状況・取組内容] 担当医からご本人・ご家族へ説明できる場を設けている。また、記録として残している。</p>					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容] 退院前カンファレンスに参加している。毎月主治医へ訪問看護計画、報告書を提出している。また、入院した場合には看護要約を医療機関へ郵送し情報共有している。</p>					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応可能な体制が構築されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
② 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことが

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		いて地域包括支援センターや介護保険課、小規模、入所施設等と連携し検討・支援を行っている。					ない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		会議の全容はかわら版に掲載は不要、ただし題目は掲載し詳しくは玄関先に設置している旨告示すればよい。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議の記録を誰でも見ることができるよう玄関先に置いている。近所にポスティングしているかわら版では運営推進会議の記録は載せていない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		① 地域からの要望もあるようなので、時期をみて是非再開して下さい。 ② 町内多くの方に認知されており現在の啓蒙活動を評価しています。コロナ終焉をみこして「何でも相談室&もったいない市」も春、秋とか年1～2回大きなイベントを計画されて	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 2ヶ月毎にかわら版作成(ポスティング)、2ヶ月毎に会社のホームページに活動内容等載せている。 4ヶ月毎に「何でも相談室&もったいない市」開催していたが、新型コロナの影響により現在中止している。ご近所の方から再開したら知らせたいのご意					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		見があった。				はどうか。費用が掛からない方法で。社協に無料で出演してくれる個人、団体の方々などに依頼、利用されるのも一法です。	
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くで

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	る						きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極的 に受け入れている		○				✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 実際に2014年12月より約4年間受け入 れを行っていた。 現在は該当者無し。					
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極的 に受け入れている	○					✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 施設内やご自宅にて看取り支援を受け入 れてきた。今後も引き続き継続してい きたい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくこと

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							が期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		地域の方からも嬉しいというご意見があり、今後も花壇の整備を続けていってほしいです。地域の方に声をかけて一緒に取り組み草引きをしながら課題を見つけたりしてもいいのかなと思いました。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出し		○			重度で医療ケア中心の為近隣住民対象は他と比べハンディ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	や向上のための具体的な取組等が行われている	<p>[具体的な状況・取組内容] 重度で医療的ケアの必要な利用者がほとんどで、その利用者宅の近隣住民に対する介護力の引き出しや向上のための具体的な取組はできていない。家族に対しては療養生活を支えていくための環境を整えたり訪問に入って療養指導している。</p>				<p>が大きい。しかし目標は決してダメなわけではない。取組みについて模索する必要がある。それが進歩につながる。「できない理由ばかり考えず、どうしたらできるか」を考えてください。</p>	<p>取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>		<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> それぞれ課題があがればミーティングなどで取り上げ計画、目標の見直しもしている。		
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<u>①</u> ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 24時間、電話対応や訪問看護が使える、家族に代わって医療との連携も行い、急な泊りも対応しており、在宅での療養生活の継続に対する安心感が得られている。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<u>①</u> ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<p>具体的な状況・取組内容] [訪問看護も24時間対応していることで、「看護師にいつでも相談ができる」という安心感から、在宅での看取りを希望する利用者および家族において、在宅での看取りに対しても安心感が得られた。</p>		<p>泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>